

介護に役立つ ほのぼの会話のすすめ

話すことを見つめる難しさ

目の前にいる人と何か交流してみたいが、一体何を話してよいかわからない、ということとは、誰にでも少なからずあります。職員と利用者の間には、半世紀以上の年の差があることは珍しくないので、共通の話題が見つかりにくいのは、むしろ当然のことだと思います。また、相手によらず、「そもそも話すことが見つからない」「取りたてて話すことなどない」という悩みをよく聞きます。これは、職員、利用者双方にとってよくあることです。楽しくてほっと心が和む話、さらには、良質な笑いを誘う話となると、プロの噺家^{はなしか}であっても苦しむくらいですので、本来簡単なことではないのです。

筆者は時折、寄席に行つて落語を聞くことがあります。そこで、新作の落語にはある共通点があることに気づきました。落語家がゼロから創作する場合もありますが、多くの場合、身の回りにあった面白い出来事をひとひねりし、面白い話、笑い話にしているのです。そういった噺を参考に、何か面白いことがあるのではないかと周囲を見回してみると、特別なことがないように見える毎日であっても、身の回りに面白い話が転がっているようなのです。面白い話は、ないのではなく、気づかないだけ、もしくは、気づいても忘れてしまうだけ、と考えると、毎日

何だか少しだけ面白くなってきました。

話題は身の回りにある

テーマを決めて写真を持ち寄り、話し手の写真を映し出し、時間と順序を決めて話し手と聞き手を明確にして会話する共想法プログラムにおいて話題を提供された、身近な面白い話を一つ紹介します
(写真1)。

写真1 そっくり傘



要旨 雨の日に出かけた時、傘立てにそっくりな傘が二本あるのに気がつきました。素材は多少違つていますが、骨が16本の高級傘です。左はジャンプ傘で、右の傘は手で開きます。そして、持ち手は革巻きで、房が付いています。傘本来の機能は同じなのに、値段に開きがあつてビックリしてしまいました。20倍以上の違いがあります。左のジャンプ傘と、右の手開きで革巻き房付きの傘、あなただったら、どちらを選びますか？

コメント 迷いますね。機能的には、ジャンプ傘で十分です。しかし、柄が革巻きで、

身の回りにある 面白い話を見つける

第8回

今回は、「聞かれれば出てくる言葉の量を測る」と題し、質問に答えようとする中で新たに出てくる言葉の量を測る「会話相互作用量計測法」について述べました。会話は面白い話があれば自然に盛り上がりますが、「面白い話を用意すること自体が難しい」「話すことが見つからない」といった悩みをよく聞きます。そこで今回は、身の回りにあるささやかな物事や出来事に気づき、面白い話を見つけるコツについて紹介します。

東京大学 人工物工学研究センター 准教授、
NPO法人ほのぼの研究所 代表理事、
科学技術振興機構 さきがけ研究者

●大武美保子